

# 富士河口湖町立 教育センターだより

No. 1 7

令和5年1月13日

文責 古屋ひとみ



デュオ・アリアーダ 学校ミニ演奏会 12月16日

勝山小学校 河口湖北中学校



サクソ奏者のミハエル・クノートさんとアコーディオン奏者のボグダン・ラケティクさんで構成するデュオ・アリアーダによる学校ミニ演奏会が勝山小学校と河口湖北中学校で開かれました。

お二人は令和4年度富士河口湖町音楽のまちづくり事業で富士河口湖町だけのために来日され、河口湖円形ホールでコンサートを開きました。(2017年1月以来2回目の来日)2校での演奏は、子どもたちにプロの生演奏を聴かせたいという思いで企画された「子供のための音楽プロジェクト2022」によって実現したものです。これまでも富士河口湖町文化振興局長の野沢藤司さんを始め、関係の皆様のご尽力により多くの学校で様々な演奏会が行われてきました。

今回、勝山小学校では5,6年生児童が、河口湖北中学校では全校生徒が鑑賞しました。会の中でお二人から演奏曲についても説明があり、子どもたちはより興味をもって素敵な演奏を聴くことができましたようです。普段プロの生演奏を聴く機会が少ない子どもたちにとって貴重な時間となりました。



勝山小学校 6年生



勝山小学校 5年生



河口湖北中学校 全校生徒



## ジュニア防災士講座 1月6日

### 災害は「正しく恐れる」ことが重要



渡辺 大介さん

1月6日（金）にジュニア防災士講座（町地域防災課主催）を開催しました。夏には、コロナ感染拡大により、中止になりましたが、しっかり感染対策を講じて、今回は実施することができました。

この講座は、子どもたちの防災意識を高めることを目的に企画されたものです。講師は地域防災課係長の渡辺大介さんです。20名以上の子どもたちが参加し、大変有意義な時間となりました。

前半の防災講座では、渡辺大介さんから『災害は「正しく恐れる」ことが重要。災害時はすべての方が被災者になる。「誰かに助けてもらう」のではなく、「力を合わせて助かる」という気持ちが大事。そのためには「日頃の準備」と「心構え」が必要である。』と防災意識を持って生活することの大切さについてお話がありました。

後半では、溶岩流実験や防災工作・避難所設営の体験

をしました。防災工作では、一人一人がペットボトルと懐中電灯を使ったランタンを作り、避難所設営では、段ボールベッドとテント

を子どもたちが協力し合って完成させることができました。子どもたちが、お互いに知恵を出し合って助け合いながら取り組む姿が大変印象的でした。自分一人だけで何とかするのではなく、協力しながら活動したことが、共助の意識をもつことにもつながったのではないのでしょうか。



防災講座の様子



溶岩流実験



みんなで協力して完成させたテントとダンボールベッドで楽しむ子どもたち

明るく光っているのは手作りランタン

